

# 棚倉町【福島県】 歴史文化基本構想

■ 策定年度：平成31年3月 ■ 人口：14,113人 ■ 市域面積：159.93km<sup>2</sup>  
■ 担当課：棚倉町教育委員会生涯学習課（平成31年3月現在）



棚倉町では、平成26年に平安時代の山林寺院である「流廃寺跡」が国指定史跡に、中世の建造物である都々古別神社本殿が国重要文化財に指定された。この指定を契機として、町民が身近な文化財を見つめ直す機運が高まり、地域固有の歴史と文化を守り、地域の活性化と魅力の増進に活かすことを目的として本構想を策定した。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

南下し北上する文化の中継点、東北の玄関口と密教の伝播、  
街道を守る城・復活の城、五穀豊穡を祈願する民俗芸能、  
国学の伝統と近代教育の先駆け

### 課題

- ・文化財の把握と調査、保存と活用
- ・文化財の維持管理と修理
- ・過疎と少子化による担い手不足

### 保存活用方針

- ・文化財を“発見する”
- ・文化財を“守る”
- ・文化財を“伝えていく”
- ・文化財を“知る・楽しむ”

## 保存活用のための取り組み

### 把握の継続と総合的な文化財を 活用した取り組み

文化財を後世に継承していくため、より一層、学識者や地域住民と共に協力し、調査・研究を行うことで、文化財の正しい知識や理解の醸成・新たな文化財の活用につなげていく。

- ◎ 指定及び未指定文化財の調査
- ◎ 総合的な文化財の活用
- ◎ データベースの構築



### 観光資源として位置づける取り 組み

地域住民や保存団体、関係諸団体と共同で取り組みながら、さらに文化財の価値の普及啓発、及び観光資源として位置づける。

- ◎ 情報発信の充実
- ◎ 文化財を活かした観光促進と環境整備
- ◎ 他市町村、大学機関、芸術団体との連携
- ◎ 生涯学習における普及啓発と活用

### 文化財の保全に関わる制度・体制の構築への取り組み

専門機関や専門家の助言や学術機関との連携により、文化財の保全に関わる制度・体制の構築を図っていく。

- ◎ 維持管理・修理
- ◎ 周辺環境の維持・向上
- ◎ 防災・防犯に関わること



### 歴史文化へ触れる機会を増やし、 郷土愛の醸成を喚起する

歴史・文化を継承していく志のある人材を集め、多くの町民が棚倉町の歴史の語りべとなり、人から人へ歴史・文化を伝承するシステムの構築を図る。

- ◎ 無形文化財等の担い手の育成と支援
- ◎ 学校教育・生涯学習との連携



## 関連文化財群



棚倉町は、陸奥国と常陸国との境界という性格を有し、古来より久慈川沿いに人々が往来する交通の要衝であり、当町の歴史文化の根底に影響を与え続けている。古来より陸奥一宮または奥州一宮を称する2つの都々古別神社は、地域の広範囲から信仰を集め、貴重な文化財や民俗芸能を伝えている。東北への密教伝播を知るうえで重要な流廃寺跡や、街道を守る城、大名復活の城としての棚倉城は、まちづくりの重要な核である。

### ストーリー

- ① 2つの都々古別神社と豊作祈願
- ② 陸奥国と常陸国の境界
- ③ 兵たちのせめぎ合い  
— 城郭の博物館 —
- ④ 江戸時代の絵図を持って歩ける城下町
- ⑤ 東白川郡の中心地  
— 棚倉の近代化と文化 —
- ⑥ 伝承や物語
- ⑦ 時の鐘回廊

## 策定後の成果（見込まれる効果）

### ① 文化財再発見への取り組み

指定文化財の再調査によって新たな価値が発見されている。未指定の文化財については、地域と一体化した調査が行われている。把握した文化財を学校教育の現場で活用する事例も見られるようになってきた。調査・研究の成果は、さらに活用できるように、記録写真等によるデータベースの構築について作業が始められた。



### ② 郷土愛の醸成と交流

様々な情報発信により行政機関や地域住民との連携強化が図られ、観光ルートの整備や資源周辺の環境整備が進んでいる。文化財の公開や講演会等を開催すると町内外から多くの参加者がみられる。文化財を活かした調査やイベントには近隣大学や芸術団体からの参加も増え、地域住民との交流が見られるようになった。



### ③ 基本構想実現への取り組み

文化財の所有者の理解によって、大切に保存された文化財が積極的に公開される。地域住民は、地域の文化と歴史に関心を持ち、触れることによって、文化財の価値を共有するとともに、次世代への継承のため、維持管理や活用など、文化財を活かしたまちづくりに積極的に参加する。行政は所有者と地域住民と連携して文化財を活かしたまちづくりを推進している。

